

令和元年10月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和元年10月30日（水）午後1時～午後1時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、毎日新聞、河北新報、
Y T S、置賜日報社

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 就任後の企業誘致の件数と雇用効果を教えてください。
- (2) 道の駅米沢の来場者が300万人を超えましたが、市内には「道の駅ひとり勝ち」の声が聞かれます。今後、ゲートウェイとしての役割をどう果たしていきますか。

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、令和元年10月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしくお願いします。今回は2つ質問を頂戴しております。まず「就任後の企業誘致の件数と雇用効果を教えてください」という質問についてですが、市外から6社の企業誘致がございました。オフィシャルカディアに建設途中の企業もありますが、これから就労される予定の人数も含めると、240名ほどの雇用が創出されるということになっております。

次に「道の駅米沢の来場者が300万人を超えましたが、市内には『道の駅ひとり勝ち』の声が聞かれます。今後、ゲートウェイとしての役割をどう果たしていきますか」という質問についてです。この質問につきましては、一年ちょっとの期間で300万人を超える方がいらっしゃったことは、私自身驚いているといえますか、予想外のご来場があったと思っております。あまりにも数が多いので、「ひとり勝ち」という言葉が使われているのかもしれませんが。

そして、今後、ゲートウェイとして、どのような役割を果たしていくかという質問ではありますが、現在においても、いろいろ取り組んでおり、地域全体の波及効果は多少はあるにしても、あまりにも300万人という数字が大きい数字でありますので、まだまだ実感をされていないのかなという感じは持っております。そういった中で、

道の駅にも観光コンシェルジュを配置して、総合観光案内所を中心に市内や置賜圏域の観光関係者との連携を密にしながら、今後も継続的に事業を展開し、道の駅としての機能を十分発揮できるよう、改善を図っていかねばならないとは考えております。

現在の主な取り組みであります。上杉の城下町として、上杉文化施設を巡ることができる「米沢観るパス」や「米沢乗るパス」を販売して、多くの道の駅の利用者に上杉文化の文化施設を回っていただきたいと思っておりますし、米沢市内外の地域でのイベントなども開催し、それぞれの地域の魅力についても発信させていただいているところであります。同時に、着地型の旅行商品の造成も行っておりますが、具体的な数値としては、そういった状況にはまだなっていないのかなと思っております。道の駅と上杉文化エリア、株式会社天元台と連携して市内の周遊促進を図るためのパンフレットについても、現在作成しているところです。

こういった状況ではあります。もっと置賜全体に足を運んでいただけるような取り組みをしていかねばならないと考えております。県が主導している「置賜観光協議会」という組織がありますが、そこでは、パンフレットの発行やいろいろなイベントを開催しており、連携しながら取り組んでいかねばならないと思っております。また、置賜定住自立圏構想が今年スタートしました。大きな目玉である広域観光をどう推進していくのかということもあり、置賜観光協議会と置賜定住自立圏構想の取り組みが類似しているということはいえると思いますので、旅行商品の開発や情報の発信についてはさらに連携を取っていかねばならないと思っております。

米沢でもブランド戦略を立てながら、いろいろな観光資源の磨き上げをしておりますが、他地域においてもやはり、魅力をどう発信していくかということが重要な課題になってくると思います。道の駅をご利用される方々が魅力ある地域に足を伸ばしていただけるように、PRや磨き上げをしていくということも含めて、一層連携を強化していきたいと考えております。

○秘書広報課長

質問に対する市長からの回答は以上です。質問などがあれば、幹事社を中心にお願いたします。

○幹事社

はい。まず、一つ目の質問ですが、中川市政になってから企業誘致は増えたのでしょうか。

○市長

以前の企業誘致については、詳しく承知しておりませんが、この4年間で6社を誘致できたということは大きな成果だと私自身は思っております。高速道路の開通を見越しての誘致が大きな要因だったと思っております。また、このうちの2社については県との連携もありましたし、高速道路開通という要因もあって6社ということになったのかなと思っております。

○幹事社

市長が具体的に働きかけた企業や具体的に関わった誘致というのがありますか。

○市長

そうですね。6社のうち4社ほどは県との連携も含めて、私個人としても、企業訪問をさせていただきました。

○幹事社

次に、二番目の質問についてです。まちで聞いてみると、特に商売をされている人からこのような声がありました。県外の観光客が増えているということは、皆さん喜んでいきます。しかし、当初のゲートウェイとしての役割を肌で感じられず、市が発信するのは来場者が200万人や300万人という部分だけなので、道の駅の課題も自覚して欲しいという意味での声だと思います。お聞きしていると課題は自覚しているようですが、具体的にパンフレットはいつ頃完成するのでしょうか。

○市長

時期については聞いておりませんが、今年度中に対応するという事で理解をしております。これは置賜総合支庁との連携ですが、定住自立圏構想で特別地方交付税としていただく財源もありますので、それらを活用しながら置賜観光協議会とも連携し、新たなパンフレットの作成についても行っているという状況です。

○幹事社

分かりました。その他でもう一点質問です。市長選に向けての準備はどこまで進んでいますか。

○市長

市長選挙まで20日を切った訳ではありますが、私自身公務との関りもございまして、後援会にお任せしているというのが現状です。しかしながら、いろいろな準備を進めていただいておりますので大変ありがたいと思います。空いている時間でしかご挨拶ができないということもありますが、後援会に着々と準備を進めていただいております。ありがたく感じております。

○幹事社

市長としての手ごたえはありますか。

○市長

自分が回っていれば手応えも感じると思いますが、あまりにもできないものですから、手応えという状況にはまだまだ至っておりません。むしろ記者の皆様からお聞きしたいなと思っております。

○幹事社

質問のある方はお願いいたします。

○記者

自民党の閣僚や大臣の失言が続いておりますが、どのように受け止めていましたか。

○市長

難しい質問で私がどう答えられるかですが、ただ一般的な見方として、国のトップ

の発言ですので、言葉一つ取っても影響があると思っております。例えばジョークで言った内容であっても、文脈のつながりをみるとなかなかそうは捉えられないだろうなということもあります。国のトップにある人の発言というのは、国民にしっかりと寄り添うような内容でなければいけないのではないかと。なぜあのような言い方をしたのかという想いは個人的にはあります。

○記者

有権者の目が厳しくなっていくと思うのですが、ご自身の選挙は自民党から推薦を受ける訳ですが、そういった意味で有権者への影響というのは考えられますか。

○市長

構図としては私が自民党からの推薦を受けたということですので、はっきり言えばあのような問題は起こして欲しくないなという想いは持っております。

○記者

もしかしたら影響が出るのかなという懸念はしていますか。

○市長

無いに越したことはないと思っておりますが、ただこれは有権者の皆様がどう捉えるかということになると思いますので、国政の中での問題ですが、国民から批判のないような対応をしていただきたいと思いますし、しか言いようがございません。

○記者

分かりました。ありがとうございました。

○幹事社

他にいかがでしょうか。

○記者

はい。最近、地方自治体で税務の徴収や請求関係で問題が散見しております。庁内で教育などはあると思うのですが、民間企業だと問題があった時には、違う部署も含めて共有するということが一般的に行われております。置賜3市5町でも問題が起きた、あるいは問題が起きそうなポテンシャルがあるときに、それを共有するような会議などを定期的に設けられてはいかがでしょうか。

○市長

米沢市も固定資産税関係で対応の不適切などころがあり、県内では最初に気づいて修正をさせていただきました。その後、各自治体でも目が届かなかったという実態があり、先日は高畠でも問題があったようです。改正になっている部分を見過ごしたということ自体が、法令順守という点では間違いがあったのかなと思っております。

法定外の補助金等についての動向は置賜全体で話し合う機会はあるのですが、税務についてはそこまでには至っておりません。今後、広域行政的な部分で3市5町、8つの自治体の中で何らかの勉強会が必要であるならば、それは当然、置賜定住自立圏の中でやっていけることでありますので検討させていただきたいと思っております。

○記者

台風19号に関して質問です。今回の台風への対応については市議会でもいろいろ

と議論されているようですが、現時点で問題として認識していることは何ですか。また、それについて今後どのようにしていきたいかということも教えてください。

○市長

今回の台風19号では避難勧告を出しました。ただ、対策本部を解散した後も、避難勧告の在り方について、職員もどの時点でどうするかという判断については、米沢も初めての経験だったものですから、いろいろ課題もあったと思っております。例えば避難勧告を出したのは暗くなってからでありますので、そこで避難勧告を出して、避難をしていただくことが本当に良かったのかという問題もあります。私はやはり早めに対応すべきところもあったのかなと思いますので、その部分や今回の状況を判断しながらどうあるべきかについては、対策をとって欲しいという指示は出しました。

○記者

コミセンとの連携について課題もあったようですが、避難所の在り方についてはどのようにお考えでしょうか。

○市長

はい。避難所としてのコミセンについては第一義的に考えさせていただきましたが、愛宕地区についてはコミセンから愛宕小学校へ変更いたしました。今回は初めてのケースだったので、避難所については突発的な対応で誰が開けるかなど、いろいろな課題があった訳であります。そのような部分やスムーズな対応の仕方については、検討していかなければなりませんし、職員の配置などの体制についても完璧ではなかったと思います。これを機会として、課題をどう捉えて改善していくのかということについては指示を出したところであります。

○記者

前回の公約の時には、コミセンに職員を常駐させるというようなことをおっしゃっていましたが。

○市長

それとは違います。それは地域の活性化のために常駐させるということでしたが、災害に対する職員の派遣については公約とは違います。

○記者

関連の質問ですが、定住自立圏構想の中での災害対応策というのは項目にあるのでしょうか。

○市長

いろいろな場面を想定できます。例えば、課題が出たときには、新たな取り組みとして3市5町全体で行うことができます。置賜では高畠町と川西町で一番被害が甚大でしたので、広域的には何ができるのかということがあれば、話し合いの中で対応していきたいなと考えております。

○記者

こちらの被害はそれほどでもありませんでしたが、宮城や福島、長野で問題になっているのが出てきたごみの処理基準を明確に決めていない自治体が多かったという

ことです。ここは災害が少ないですが、広域で決めておく方が良いのではないかなど、そのような議論はありますか。

○市長

今のところそこまで至っておりません。ただ、災害が起きた地域からのごみの搬入については今までもやりましたし、そういった受け入れについては、置賜広域の中で処理をしたという経過もありました。

○記者

米沢の場合、確か民間でやっていたよね。

○市長

はい。最終処分場が米沢にあります。協定を結びながら搬入している自治体もあるようです。

○記者

分かりました。

○記者

平田東助章なのですが、今回発行の市報を見ていると、功績者があって、功労者、技能功労者、そして最後にこの章があるため、ついでにできた章なのかなという印象を受けるのですが。

○市長

そのようなことはありません。

○記者

そう読めるので、今後、平田東助章というのは市にとって、どういう位置付け、どういう重みを持ったものなのかを改めて聞かせてください。

○市長

平田東助氏は産業組合法を制定して、JAや信用金庫、信用組合、生協、あるいは山形市にある済生会などを創設された方です。私は農業分野のみならず、産業的などころも含めて、ご尽力のあった方だと思っております。ただ章の順番があるというだけで、功績者は功績者、功労者は功労者、技能功労者は技能功労者、そして、平田東助章は平田東助章ということで、そのような位置付けであります。

○記者

分かりました。

○幹事社

他に質問はありますでしょうか。

○秘書広報課長

無いようですので、令和元10月の定例記者会見を終了いたします。